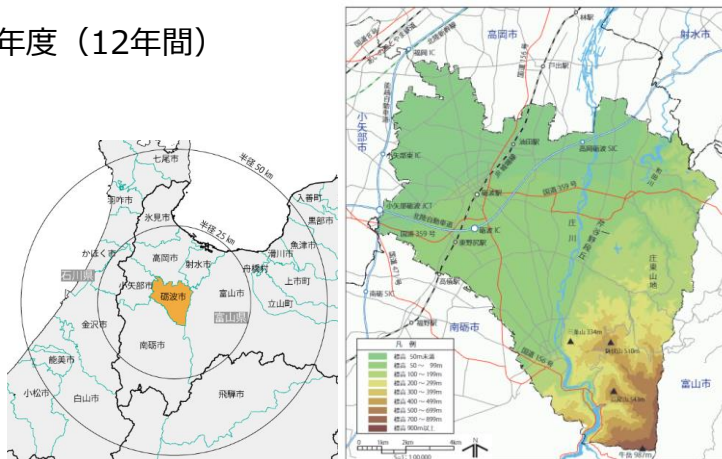


07 砺波市文化財保存活用地域計画【富山県】

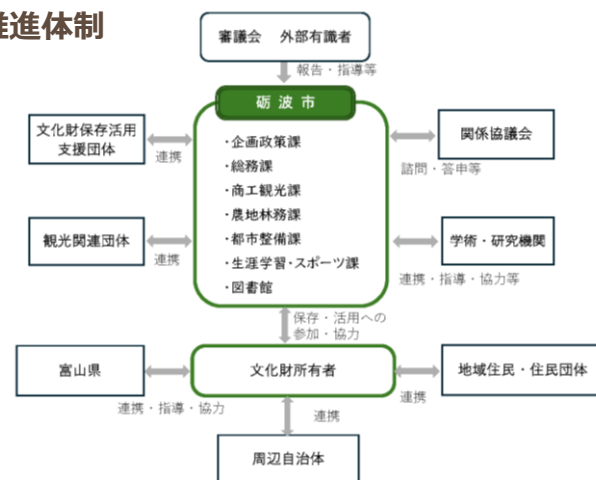
【計画期間】 令和7～18年度（12年間）
 【面積】 127.03km²
 【人口】 約4.7万人



砺波市の位置図



■ 推進体制



■ 砺波市の指定等文化財件数

類 型			国		県		市		計	
			指定 選定	登録	指定	登録	指定	登録		
有形文化財	建造物		0	5	2	—	8	0	15	
	美術工芸品	絵画	0	0	3	—	0	0	3	30
		彫刻	1	0	1	—	9	0	11	
		工芸品	0	0	0	—	3	0	3	
		書跡・典籍 ・古文書	0	0	1	—	7	0	8	
		考古資料	0	0	0	—	4	0	4	
		歴史資料	0	0	0	—	1	0	1	
無形文化財			0	0	0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財		1	0	0	—	3	0	4	
	無形の民俗文化財		0	0	1	0	1	0	2	
記念物	遺跡		1	0	0	—	9	0	10	
	名勝地		0	0	0	—	1	0	1	
	動物・植物・地質鉱物		0	0	1	—	7	0	8	
文化的景観			0	—	—	—	—	—	—	0
伝統的建造物群			0	—	—	—	—	—	—	0
計	(指定)		3	—	9	—	53	—	65	70
	(登録)		—	5	—	0	—	0	5	

※「—」は制度がないものを示します。

指定等文化財は70件、未指定文化財は911件把握

■ 歴史文化の特性

戦の歴史文化

本市は、古代から数々の戦乱の舞台となった。古くは平安時代の源平争乱時、倶利伽羅の合戦の前哨戦として般若野の合戦が行われ、続く鎌倉時代には承久の乱で戦いが繰り広げられた。戦国時代には北陸屈指の巨城である増山城が築かれ、各地に城・砦・館といった防御施設がつけられた。

信仰の歴史文化

古くから人々は信仰をよりどころとし、白鳳時代には三論宗の千光寺が開かれ、奈良時代には福山窯で須恵器の瓦塔が焼かれた。鎌倉時代に新しい仏教が広まると、浄土真宗の勢力が一気に広がり、浄土真宗を中心とした仏教が盛んな風土が形作られた。また、子供歌舞伎や獅子舞といった、信仰にもとづく祭りの文化も栄えた。

水の歴史文化

本市は大部分が庄川がつくった扇状地である。庄川が運ぶ水は平野の水田を潤し、奈良時代から米作りに利用されてきた。古く奈良時代から砺波は穀倉地帯として知られ、水田の多さは独特の景観を生み出している。

庄川は飛騨からの流木や、多くの恵みをもたらす反面、水害も多く、堤防を築くなどして治水にも労力を要した。

米の歴史文化

奈良時代に未開地を開墾した利波臣志留志は、多くの米を生産し、奈良東大寺大仏建立に貢献するなどして米どころの基礎を作った。近世には加賀藩が堤防を築いたことで庄川が固定化され、そのおかげで氾濫原を開墾して散村集落がつくられた。こうした藩の政策により米の収穫量が増加し、加賀百万石の大きな割合は砺波郡によって支えられた。



文化財の保存・活用に関する目標、課題・方針、措置

散りばめられた文化財が咲き誇るまちをつくらう

基本理念	基本方針	課題	方針	措置（抜粋）
	価値をみいだす	【調査・研究】 ○獅子舞が数多く行われているが、総合的な調査が行われていない 【文化財の適切な評価】 ○未指定文化財は、適切な調査を行った上で、価値付けを行う必要がある 【保存・管理】 ○増山城跡は、史跡整備が不十分 【防災・防犯】 ○自動火災報知設備などが未整備等の文化財がある	【文化財の調査・研究の推進】 ○詳細な祭りの内容の把握や記録保存を主とした総合調査を行う 【文化財に対する適切な評価】 ○調査によって価値が明らかになった場合、文化財の保護に努める 【保存・管理の推進】 ○増山城跡は、計画的な史跡整備を進める 【防災・防犯】 ○防火管理や収蔵庫、消防施設、避雷針等の防火施設・設備の充実を促進する 等	4 獅子舞調査の継続 ■行政、専門家 ■R7～18 獅子舞に関する状況把握をするために調査を実施する。 11 市登録制度の運用 ■行政、専門家 ■R7～18 新たに創設した登録制度を運用し、文化財の登録を進める。 12 増山城跡史跡整備 ■行政、専門家 ■R7～12 国指定史跡である増山城跡を適切に保存し活用するため、史跡整備を推進する。
	魅力をひきだす	【地域活性化】 ○観光資源としての文化財の活用は不十分 【情報発信】 ○わかりやすい情報提供に努める必要がある 【魅力をひきだす活用】 ○さまざまな普及啓発を行い、市民にアプローチする必要がある 【文化施設】 ○文化施設間で連携することが求められている 等	【地域活性化の推進】 ○観光や産業への文化財の活用や、地域活性化を図る 【情報発信の推進】 ○より多くの人に文化財の魅力が伝わるように、わかりやすい情報提供に努める 【魅力をひきだす活用の推進】 ○さまざまな普及啓発を行い、市民の方にアプローチする 【文化施設の ICT活用や企画連携の推進】 ○文化施設間で連携した企画展や特別展の開催を推進する 等	22 産業観光ブラッシュアップ ■行政、団体 ■R7～18 民間事業者と連携し、産業観光での文化財活用を推進する。 37 獅子舞AR コンテンツの制作 ■行政、市民 ■R7～12 獅子舞の特徴を知ってもらうため、AR コンテンツの制作を進める。 39 文化施設連携企画展の開催 ■行政、団体 ■R8～12 郷土資料館、美術館、散居村ミュージアムなど文化施設が連携し、企画展を開催する。
	物語をひきつぐ	【人材育成】 ○伝統文化・芸能の指導者や担い手の育成が求められている 【組織・体制づくり】 ○連携するためのプラットフォームの設置が求められている 【学校教育との連携】 ○学校との連携をさらに深め、小学校および中学校社会科副読本への情報提供や出前講座などを通じて、文化財の魅力を伝えることが求められている 等	【人材育成の推進】 ○地域の伝統文化・芸能を継承するため、指導者や担い手の育成を推進する 【組織・体制づくりの推進】 ○文化財関連団体や地域の人材の連携や情報交換の場としてプラットフォームを設置する 【学校教育との連携の推進】 ○学校との連携をさらに深め、小学校および中学校社会科副読本への情報提供や出前講座などを通じて、文化財の魅力を伝える 等	41 郷土芸能伝承指導者の養成 ■行政 ■R7～18 伝統文化・芸能を後世に継承するため、指導者や担い手の育成を支援する。 49 地域文化財マップの作成 ■行政、団体 ■R9～18 文化財を地域で守る組織づくりの一環として、公民館を主体として地域文化財マップを作成する。 54 砺波散村地域学習講座の開催 ■行政 ■R7～18 小学校・中学校・高校と連携し、散村地域を深く理解するための学習講座を開催する。





■ 7つの関連文化財群

I 戦の歴史文化

① 源平合戦と戦国争乱の舞台

II 信仰の歴史文化

② 布教の歴史と仏教文化

③ 五穀豊穡を祈る祭り文化

III 水の歴史文化

④ 庄川の治水と用水

⑤ 扇状地でのチューリップ栽培

IV 米の歴史文化

⑥ 古代豪族の開墾と献物

⑦ 散村と米作りの生活文化



■ 1つの文化財保存活用区域

庄川地域文化財保存活用区域

庄川扇状地の扇頂部に位置し、山深い五箇山と瑞泉寺の門前町である井波を結ぶ地点で、一級河川の庄川に関わりの深い区域。

④ 庄川の治水と用水

本市は大部分が庄川でつくられた扇状地である。庄川が運ぶ水は平野の水田を潤し、奈良時代から米作りに利用されてきた。古くから砺波は穀倉地帯として知られ、水田の多さは独特の景観が生み出している。庄川は飛騨からの流木や、多くの恵みをもたらす反面、水害も多く、堤防を築くなどして治水にも労力を要した。



① 源平合戦と戦国争乱の舞台

本市は、古代から数々の戦乱の舞台となった。古くは平安時代の源平争乱時、俱利伽羅峠の合戦の前哨戦として般若野の合戦が行われ、続く鎌倉時代には承久の乱で戦いが繰り広げられた。戦国時代には北陸屈指の巨城である増山城が築かれ、各地に城・砦・館といった防御施設がつけられた。



⑤ 扇状地でのチューリップ栽培

本市では、大正時代から米作りの裏作としてチューリップの栽培が始まり、扇状地の土壌や気候が適していたことから切花や球根の生産量が増加するとともに、春に行われるチューリップフェアは70年以上も続き、市の代表的な観光イベントに成長した。



② 布教の歴史と仏教文化

古くから人々は信仰をよりどころとし、白鳳時代には三論宗の千光寺が開かれ、奈良時代には福山窯で須恵器の瓦塔が焼かれた。鎌倉時代に新しい仏教が広まると、浄土真宗の勢力が一気に広がり「真宗王国」といわれる越中の風土が形作られた。



⑥ 古代豪族の開墾と献物

砺波地方は古くから穀倉地帯として知られるが、その起源は奈良時代の地方豪族である利波臣志留志が扇状地を開拓し、多くの米を都に献上したことに由来している。その志留志は米とともに開拓した土地を奈良東大寺に寄進し、米作りの基礎をつくった。



③ 五穀豊穡を祈る祭り文化

本市では、子供歌舞伎曳山、獅子舞、夜高祭り、盆踊りの「チョンガレ」や「えんじゃら」など多くの祭りが今も受け継がれ、五穀豊穡を祈る祭り文化が定着している。これらは信仰にもとづくもので、祭りを軸とした一年のサイクルが生活のなかに根付いている。



⑦ 散村と米作りの生活文化

砺波地方で行われていた米作りは、江戸時代を通して加賀藩の石高を支えた。扇状地上では川跡を開拓して耕地とし、稲作に特化するため家のまわりに水田を配することで散居村（散村）の集落がつけられた。また、人々の住まい方や年中行事もほぼすべてが米作りが中心にあった。



■庄川地域文化財保存活用区域

庄川扇状地の扇頂部に位置し、山深い五箇山と瑞泉寺の門前町である井波を結ぶ地点で、一級河川の庄川に関わりの深い区域である。庄川が峡谷を抜けて平野に出る場所で、これまで治水に多くの労力を要した一方、昭和初期に建設された2つのダムや、庄川両岸に集中する用水取水口など水関連施設があり、砺波平野における工業や農業の発展に寄与してきた。

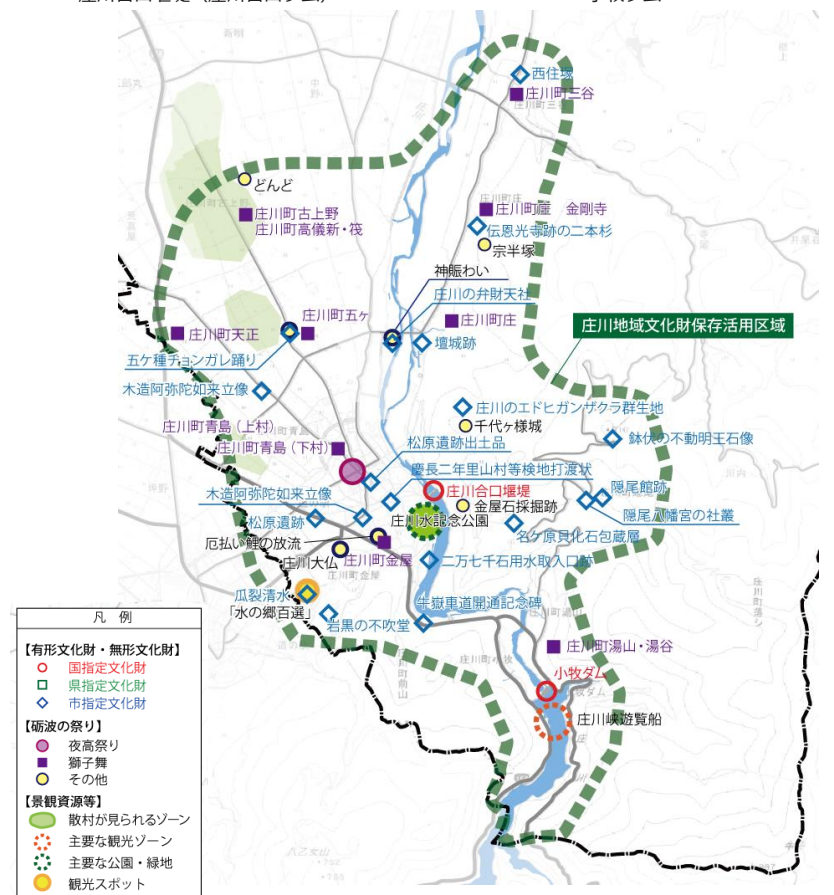
この地域は、昭和初期に行われたダム建設で隆盛したという歴史がある。その象徴的存在として、小牧ダム（国登録有形文化財）と庄川用水合口ダム（庄川合口堰堤、国登録有形文化財）がある。小牧ダムは水力発電用、庄川用水合口ダムは庄川流域の農業用水の取入れ口を合口化するために建設されたものである。建設当時、最高級の建設資材とされたコンクリートは、左官の名工・竹内源造の鍔絵の技術によって庄川大仏や山田文作像（現在は亡失）、一本橋の欄干、木村産業株式会社の社屋などダム以外にも使用された。



庄川合口堰堤（庄川合口ダム）



小牧ダム



庄川地域文化財保存活用区域の範囲

課題と方針

この区域は、庄川に関わる歴史が深く、関連した文化財が多く密集している。春にはエドヒガンザクラ、夏には夜高や五ヶ種チョンガレ、秋には獅子舞、冬には厄払い鯉の放流など四季折々に文化財に触れることができる。庄川峡遊覧船や温泉郷には季節を問わず多くの人々が訪れている。しかし、文化財が豊富で観光イベントや観光地は充実している一方、それぞれの結びつきや連携が弱いところがある。

そこで、文化財と観光を結びつける手段として、まちづくりを行う市民の協力を得ながら、ICT 技術の活用やインターネットによる情報の一元化、情報発信の強化に努める。

措置

81 ICT を活用した情報発信 ■行政 ■R7～18

庄川水記念公園にQR コードを貼付したサインを設置し、来訪客が庄川の文化財に手軽にアクセスできるようにする。

82 庄川水資料デジタルコンテンツの拡充 ■行政、市民 ■R7～18

ウェブ上に情報を一元的にまとめたポータルサイトを開設し、随時情報更新を行い、庄川や水資料の情報発信を行う。